

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

第36期ビジネスレポート
2011年7月1日～2012年6月30日(期末)



ユビテックはチャレンジ25
キャンペーンに参加しています。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用して印刷しています。



証券コード：6662

株式会社ユビテック

1年の歩み

2011

8/24

ユビテックの技術を活かした復興支援
宮城県山元町にデジタルサイネージ「UGS情報POD」設置

9/14

大塚商会本社に「UGS (Ubiteq Green Service)」導入
国際標準規格IEEE1888でスマートビルを実現
※Topics 01参照

9/30

ユビテックソリューションズ デジコンと共同で企業の教育・研修配信サービス開始

10/4

「グリーンITアワード2011」授賞式
「UGS」が経済産業省商務情報政策局長賞受賞
※Topics 02参照

10/26

NEDOの省エネルギー革新技術開発事業に採択
「UGS」を利用した電力需要制御システム研究開発

12/1

日本マイクロソフト品川本社オフィスに「UGS」導入
マイクロソフトテクノロジーと融合した新たな見える化の価値創造
※Topics 01参照

12/14

宮城県山元町に町内巡回バスの位置情報システム「ぐるりんマップ」、車載計測式ガイガーマップ「UGM」提供

2012

1/6

ユビテックソリューションズ 業務を効率化するビジネスルールマネジメントシステム「Biz Compass」発売

3/13

新しいGISサービス(クラウド型)「Spatial Gateway Premium」
“導入費用のいらない”地図上での見える化サービス提供開始
※Topics 03参照

4/4

ユビテックソリューションズ 健康診断業務をトータルサポートする健康診断業務支援システム「MedicalWave」発売

6/1

IPA「2011年度 自動車の情報セキュリティ動向に関する調査」を一般公開
ユビテックがセキュリティ上の脅威(問題点)分析に協力
※Topics 04参照

6/5

「LiveE!プロジェクト 第1回サイエンスコンテスト」にユビテック協賛
高校生・大学生・若手研究者を対象とした環境情報の有効活用コンテストを開催

6/15

「UGS (Ubiteq Green Service)」をショッピングセンター初導入
NEDOの助成金を活用してオリックス施設で実証実験
※P4参照

8月

9月

10月

12月

1月

3月

4月

6月

Topics

01

UGSを大塚商会本社、日本マイクロソフト品川本社に導入

2011年2月のキャンパスタワーへの導入に引き続き、2011年9月に導入いただいた大塚商会本社においては、環境分野におけるソリューション商品を拡充する一環として、民間企業としては世界初となる、国際標準通信規格IEEE1888(※1)を利用した電力可視化ソリューションを構築しています。導入により、社内向けに消費電力量を見える化しただけではなく、電力データの受け渡しをIEEE1888経由で行い、社外の見える化サーバとも連携させたことにより社外からも電力使用状況を確認することが可能となりました。

2011年12月に導入いただいた日本マイクロソフト品川本社の新オフィスにおいては、環境にも配慮した設計がされており、2012年までにエネルギー消費量30%削減(2007年度比)を目指し、社員参加型で効率的にエネルギー消費量を削減できるように、部門ごとの電力消費の可視化など、社員の意識向上を図る仕組みが必要とされていました。導入により、品川本社オフィスのBEMS(※2)とも連携し、今まで設備管理者しか把握することができなかった空調による電力消費の見える化の仕組みも構築されました。

また、マイクロソフトテクノロジーとUGSの技術の融合が創り出した見える化の新たな価値は、社員の省エネルギー意識を高めただけでなく、ITをフル活用したワークスタイルの変革をも実現しました。

※1: IEEE1888
2011年2月に標準化されたスマートグリッド向けの国際標準通信規格。従来の設備ネットワークでゲートウェイとして機能していた部分のみならず、データを蓄積させるための機器(Storage)やデータ加工およびユーザとのインタラクションを行う機器(APP)も、すべて相互接続可能な部品として扱えることが可能。

※2: BEMS
Building and Energy Management System の略で、ビル管理システムのことを指す。ビルの機器・設備等の運転管理によってエネルギー消費量の削減を図るためのシステムのこと。

Topics

02

UGSが「グリーンITアワード2011」を受賞

2011年10月3日に発表された「グリーンITアワード2011(※)」(主催:グリーンIT推進協議会、後援:経済産業省)において、UGSが経済産業省商務情報政策局長賞を受賞いたしました。

今回、UGSは「ITによる社会の省エネ(byIT)」に貢献したソリューションとして、経済産業大臣賞に次いで優れたものとの評価をいただきました。

※: グリーンITアワード2011
「ITの省エネ」および「ITによる社会の省エネ」を両輪とする「グリーンIT」の取組みを一層加速するような、IT機器・ソフトウェア、またはそれを活用したサービス、システム等(以下「IT機器等」)を開発・普及させた、または利用したことにより、社会におけるエネルギー使用量を削減させた場合において、環境保護と経済成長が両立する社会の実現に繋がったとして、当該IT機器等を表彰する制度。



Topics

03

新しい形の「地理情報サービス」を発売

2012年3月より、空間・地図による業務・サービスを向上させる地理情報ソリューションとして、“使いたい時に、使いたい分だけ使える”クラウド型地理情報サービス「Spatial Gateway Premium」を開発し、新しい形の地図上での見える化サービスの提供を開始いたしました。

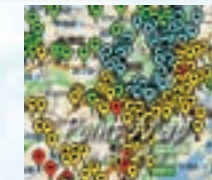
「Spatial Gateway Premium」の特長

- 導入の構築費用が不要
- ・ 地理情報システムと地図データはクラウドが持つっており、「自分のデータを準備」するだけで利用可能。
- ・ 利用時に「使った時に、使った分だけ」をお支払い(チケット制)。

※基本コンセプトは「コンビニ感覚で、誰でも気軽に利用できるGISサービス」であり、右図の他にも様々な情報地図の表示が可能。

※当サービスについては、下記のURLからご確認ください。

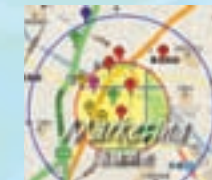
URL: https://cloud-gis.ubiteq.co.jp/Spatial_Gateway/premium/index.html



顧客マップ



勢力マップ



エリアマーケティング

Topics

04

IPA「自動車情報セキュリティの動向調査」に協力

2012年5月に一般公開された、独立行政法人 情報処理推進機構(以下「IPA」)の「2011年度 自動車の情報セキュリティ動向に関する調査」の作成に昨年に引き続き協力しました。

近年、情報通信技術の進展に伴い、自動車車載機器のネットワーク機能の拡大や車載ソフトウェアの増加、車載機器・システムのメーカー共通化(汎用化)が進み、車載機器・システムの脆弱性が解析され、ネットワーク経由で外部から自動車が攻撃を受ける可能性が高まっています。

今回、当社では各種情報家電や車載機器開発の豊富な経験と技術を活かし、検討会運営、国内・海外調査および報告書の取りまとめに協力しました。

※本調査報告書は、IPAのホームページにて詳細をご覧いただけます。

URL: http://www.ipa.go.jp/about/press/20120531_2.html

環境ソリューション事業の更なる発展を目指し、あらゆるニーズにお応えできる自社製品・自社サービスの機能向上と提供に努めて参ります。

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

また、昨年は東日本大震災による未曾有の大惨事がおき、今年も地道にユビテックが出来る復興支援をして参ります。

第36期は、ATM向けセンシングモジュールやカーソリューション事業は堅調に推移したものの、引き続き厳しい事業環境となりました。グループ全体によるローコストオペレーション体制を維持しながら、環境ソリューションを主体とした自社開発製品や自社サービス事業を着実に進めて参りました。

特に、省エネソリューション「UGS (Ubiteq Green Service)」につきましては、前期にキャノンタワー（東京都品川区）や大学等に導入いただいた後も、2011年9月に大塚商会の本社事務所（東京都千代田区）、12月に日本マイクロソフトの品川本社オフィスに導入いただいております。

また、本年6月にはショッピングセンター向けの初めての案件として、親会社のオリックス株式会社が所有する「クロスガーデン多摩」（東京都多摩市落合）に導入いたしました。

なお、このクロスガーデン多摩への導入においては、経済産業省所管の独立行政法人であるNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の省エネルギー革新技術開発事業に採択されており、「中小規模ビルでも容易に導入できるリアルタイムの節電目標を達成可能なフィードバック型電力需要制御システムの研究開発」というテーマで、NEDO事業より2分の1の助成金の交付を受け、2011年8月31日～2013年2月28日の期間で実証実験を行っています。

UGSは「グリーンITアワード2011」（主催：グリーンIT推進協議会、後援：経済産業省）における「経済産業省商務情報政策局長賞」の受賞など、「ITによる社会の省エネルギー」に貢献したソリューションとして高い評価もいただいております。

しかしながら、UGSについては現在の厳しい経済環境や新しい市場の創造ということもあり、拡販の立ち上がりには時間がかかり、高い評価をいただいているものの業績に結びつくまでにはなかなか至っていませんが、今後も継続して更なる機能向上を行い、国際化への対応等も視野にいたした様々なニーズにお応えできる次世代への展開を進めてまいります。

また、販売面においても国内大手代理店との関係を強化すると共に、アジア中国市場の成長を取り込むために、事業拠点の海外展開について具体的な検討を開始しております。

ユビテックは「人を感じて動く、人に合わせて動く」をビジョンとして、「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」を実現する「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」を提供し続け、人的負担を極力排除した省エネソリューションを提供し、経済再生への一端を担っていきたくと考えております。

外部環境は引き続き大変な状況が続くと予想されますが、夢のある、そして、社会に「有難がられる」、「尊敬される」会社となるために、頑張っていこうと考えております。

今後も当社の企業理念に従い、引き続き社員一丸となり更なる成長に向け努力してまいりますので、一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



代表取締役社長 荻野 司

「UGS (Ubiteq Green Service)」をショッピングセンターへ初導入
～ NEDO助成金を活用してオリックス施設で実証実験 ～

当社は、省エネソリューションUGSをオリックス株式会社が所有するショッピングセンター「クロスガーデン多摩」（東京都多摩市落合）に導入いたしました。

クロスガーデン多摩は、2008年4月に多摩センターにオープンした敷地面積：7,170坪（店舗面積は13,130坪）、53店舗という規模のショッピングセンターであり、UGSを初めて商業モールへ導入いたしました。

この施設のUGS導入以前は、「電球の間引き」や「警備員の方が時間帯・状況に応じてこまめに消灯・点灯」などの人手による節電活動が行われていました。

今回のUGS導入により、共用部の「照明の見える化および制御」をITにより行い、2010年の年間電力使用量：240,000kwhに対し、約50%（年間電力使用量：110,000kwh、電力代：約200万円削減/年）の節電効果を見込んでいます。

また当社は、経済産業省所管の独立行政法人であるNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の省エネルギー革新技術開発事業に採択されており、今回のクロスガーデン多摩では、「中小規模ビルでも容易に導入できるリアルタイムの節電目標を達成可能なフィードバック型電力需要制御システムの研究開発」というテーマで、NEDO事業より2分の1の助成金の交付を受け、2011年8月31日～2013年2月28日の期間で実証実験を行っています。

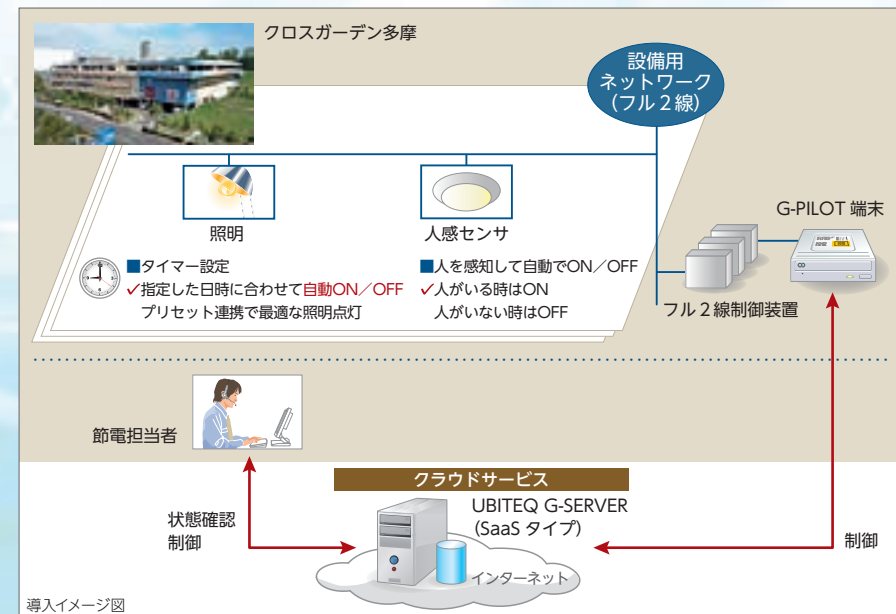
■ UGSの導入により実現されること

節電対策にかかる管理・作業手間の解消

- ▶ 人手で行われていた照明の間引き、ON/OFF作業をタイマー制御により自動化
- ▶ タイマー設定・遠隔操作など、PCのブラウザより簡単操作、また各照明機器の稼働状況の確認やデータの一元管理
- ▶ プリセット機能（自動的な間引き運転）にて予め作成した制御パターンを必要に応じて使用

お客様の快適性維持

- ▶ 人感センサとの連動により、お客様がいる時に必要な照明のみが点灯し、お客様の快適性を維持しながら省エネを実施



企業理念

「次世代ユビキタス技術の創造に挑戦」
「技術と顧客志向」

省エネソリューションの開発経緯

ユビテックの省エネソリューション開発の歴史は、2003年に松下電工（現パナソニック）とHX（Home eXchange）という家庭向けにITを活用した照明やセキュリティシステムのコントローラーの共同開発を開始した事にさかのぼります。その後、2004年6月に慶応大学湘南藤沢キャンパスインキュベーションビルレッジ導入のためのBX（Building eXchange）開発を皮切りに、ビル向けのシステム開発を本格的に開始し、機能開発を絶え間なく行った事により、現在のUGSへと繋がっています。

このように、ユビテックでは、改正省エネ法や東京都環境確保条例等による国や自治体における省エネ活動が推進される以前から、ITを活用した無理のない省エネを行うためのソリューション開発を先進的に行なっています。また、自社内にもUGSを導入し、継続性のある快適な省エネ活動の仕組みを構築しており、昨年発生した東日本大震災による節電要請にも速やかに対応することができました。なお、その当時の実績として最大46%の電力使用量の削減を達成しており、UGSの有効性をあらためて確認することができました。

2003年 後半	HX (Home eXchange) を松下電工 (現パナソニック) と共同開発開始
2004年 6月	慶応大学湘南藤沢キャンパスインキュベーションビルレッジ導入を想定したBX (Building eXchange) の開発開始
2004年 9月	松下電工 (現パナソニック) と資本提携実施
2004年 11月	BXデモ版を松下電工 (現パナソニック) と共同開発開始
2006年 1月	慶応大学湘南藤沢キャンパスインキュベーションビルレッジに「BX」導入
2006年 2月	IPv6普及・高度化推進委員会主催の「IPv6 アプリコンテスト2005」で「BX」がインプリメンテーション部門企業枠の最優秀賞受賞
2007年 12月	松下電工 (現パナソニック) と2回目の資本提携を実施し、関係強化
2008年 6月	グリーン東大工学部プロジェクト (現東大グリーンICTプロジェクト) が発足し、参画
2008年 11月	オフィス向けインターネットと設備制御の統合ゲートウェイ「BX-Office」開発
2009年 7月	改正省エネ法ソリューションUEW (ユビテックエネルギーウォッチャー) 発売
2009年 12月	シスコルータとBX-Officeシリーズを組み合わせた「CFMS by BX-Office」発売
2010年 5月	東京大学第二本部棟のエネルギー見える化システムの構築に「BX-Office」導入

2010年 7月	BX-Office をSaaS TYPEに進化させた「UBITEQ-G-SERVER」、「UBITEQ-G-PILOT」発売
2010年 12月	SaaS型省エネサービス「UGS」発売 大阪大学サイバーメディアセンターに「BX-Office」導入
2011年 2月	キャノン Sタワーに「UGS」導入
2011年 3月	「UGS」に国際標準通信規格IEEE1888搭載
2011年 6月	Interop Tokyo 2011実行委員会主催の「Interop Tokyo 2011 Best of Show Award」で「UGS」が特別賞受賞
2011年 9月	大塚商会本社に「UGS」導入
2011年 10月	グリーンIT推進協議会主催の「グリーンITアワード2011」で「UGS」が経済産業省商務情報政策局長賞を受賞 ユビテックが提案した研究開発が、NEDO (独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構) の省エネルギー革新技術開発事業に採択
2011年 12月	日本マイクロソフト品川本社オフィスに「UGS」導入
2012年 4月	「省エネルギー装置、省エネルギーシステム及び省エネルギープログラム」の特許取得 ・特許第4966426号 (登録日: 2012年4月6日)
2012年 5月	「省エネルギー装置、省エネルギーシステム及び省エネルギープログラム」の特許取得 ・特許第4989801号 (登録日: 2012年5月11日)
2012年 6月	オリックスが所有するショッピングセンター(クロスガーデン多摩)に「UGS」導入

東大グリーンICTプロジェクト

東大グリーンICTプロジェクトは、2008年6月に東京大学大学院情報理工学系研究科の江崎浩教授を代表として、東京大学工学部が主体となり23社の企業と10団体で「グリーン東大工学部プロジェクト」が発足した事に由来し、ユビテックは創立時からのメンバーとして参画しています。

このプロジェクトの目的は「消費電力削減による地球環境保全と活動環境の改善」と「Green of IT (省エネ技術を用いたITの省電力化) と Green by IT (IT技術を活用した省エネの実現)」の両軸に足を置いた省エネ技術の研究・開発であり、「させられる環境対策からやりたくなる環境対策」を目指して活動を推進し、発足から2年後にはプロジェクトの活動成果が認められ、2010年より工学部から全学を対象としたプロジェクトとして現在の「東大グリーンICTプロジェクト」に拡大されました。

2010年5月の東京大学第二本部棟へのエネルギー見える化システム構築の際には、東大グリーンICTプロジェクトメンバーとして実証システムの開発を行い、「BX-Office」を導入しています。

なお、昨年夏の節電実績として、東京大学全学ではピーク電力平均31%、使用電力量平均23%の削減、工学部2号館ではピーク電力平均44%、使用電力量平均31%の削減を実現し、大きな成果を挙げています。

また、これらの活動を通じて2009年の10月にグリーンIT協議会主催「グリーンITアワード2009・審査員特別賞」および日経BP社主催「グリーンITユーザーアワードプロジェクト賞」を受賞し、対外的にも高い評価を得ています。

そのほかにも、FIAP (Facility Information Access Protocol) という共通通信プロトコルの国際標準化の海外推進等を行い、2011年2月にはFIAPの国際標準となるIEEE1888の承認に中国との協業で成功し、成果を挙げています。

ユビテックは、このプロジェクトでの活動を通じ、省エネソリューションの開発および機能・付加価値の向上が進み、更なる発展を遂げています。

受賞歴

- 省エネソリューションに関連した賞は、以下を受賞しています。
- 2006/02/16 「Building eXchange」がIPv6普及・高度化推進委員会主催「IPv6アプリコンテスト2005・インプリメンテーション部門企業枠・最優秀賞」を受賞
 - 2009/10/05 グリーン東大工学部プロジェクトがグリーンIT協議会主催「グリーンITアワード2009・審査員特別賞」を受賞
→ユビテックの「BX-Office」がグリーンIT化実証実験で貢献

- 2009/10/28 グリーン東大工学部プロジェクトが日経BP社主催「グリーンITユーザーアワードプロジェクト賞」を受賞
- 2011/06/08 「UGS (Ubiteq Green Service)」が「Interop Tokyo 2011 Best of Show Award・特別賞」を受賞
- 2011/10/03 「UGS」がグリーンIT協議会主催「グリーンITアワード2011・経済産業省商務情報政策局長賞」を受賞

省エネソリューションの関連特許

省エネソリューションに関して、以下の特許を出願および登録しています。

- UGS関連特許**
 - 特許第4966426号「省エネルギー装置、省エネルギーシステム及び省エネルギープログラム」(2012年4月登録)
 - 特許第4989801号「省エネルギー装置、省エネルギーシステム及び省エネルギープログラム」(2012年5月登録)
- BX・HX関連特許**
 - 特願2004-32146「トンネル自動設定装置及びトンネル自動設定方法」(2004年2月出願)
 - 特願2004-352525「パケット長制御装置及び該方法並びにルータ装置」(2004年12月出願)
 - 特願2004-365591「トンネル自動設定装置、トンネル自動設定方法及びトンネル自動設定プログラム」(2004年2月出願)

- 特願2005-373327「デバイス制御システム」(2005年12月出願)
 - 特願2006-348649「デバイス制御システム」(2006年12月出願)
- ※①～③の特許出願は、松下電工(現パナソニック)との共同出願です。



当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による景気悪化から緩やかに持ち直しつつあるものの、欧州債務危機に端を発する世界経済の減速に加え、長期化する円高や原油価格の高騰等の影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。当社グループの関連市場においても企業収益の完全な回復には至らず、特にエレクトロニクス業界においては苦戦を強いられており、設備投資抑制は続き、需要回復の遅れや価格低下圧力が強まる等、一般的に厳しい事業環境となりました。

このような状況の中で、前連結会計年度に引き続きグループ全体によるローコストオペレーション体制を維持すると共に、事業効率化とコスト削減などの諸施策に取り組んでまいりました。

また、事業構造の変革を最重要課題として、受託開発事業中心の構造から顧客先企業の状況に影響を受けにくい自社製品と自社サービス提供型事業へと着実に移行してまいりました。特に、省エネソリューション事業のUbiteq Green Service (以下、UGS) やカーソリューション事業の車載システムについては、「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」を実現する製品として、代理店や顧客との連携をより強化し、満足度の向上と機能強化のための更なる開発投資及び販売推進に注力してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高は3,615百万円(前期比4.3%減少)、営業利益は186百万円(前期比49.7%減少)、経常利益213百万円(前期比41.5%減少)、当期純利益は102百万円(前期比43.6%減少)となりました。

連結各セグメントの概況について

電子機器事業は、一部のセンシングモジュールで生産終了となったものもありましたが、紙幣鑑別ユニット等のATM向けセンシングモジュールやカーソリューション事業についても堅調に推移しました。コスト削減については業務全体を見直しな

がら関係協力会社にもご協力頂き、仕入コストや外部委託費用についての削減を継続して進めております。

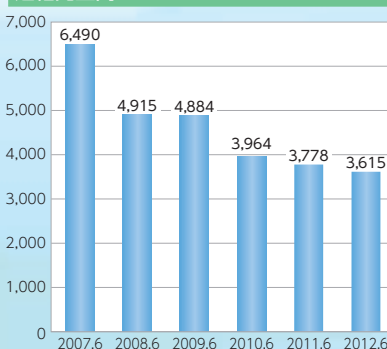
この結果、当連結会計年度の売上高は2,324百万円(前期比16.1%増加)、セグメント利益は496百万円(前期比11.8%増加)となりました。

モバイル・ユビキタス事業については、子会社のユビテックソリューションズは堅調に推移したものの、携帯電話の評価業務や国の開発プロジェクトである総務省からの受注が減少し、パナソニック電工(現パナソニック)との開発案件も前期で終了しております。また、UGSについては、東京大学・キャノンスタワーへの導入に始まり、今期も大塚商会本社やマイクロソフト本社等への導入、および「グリーンITアワード2011 経済産業省商務情報政策局長賞」や「Interop Tokyo 2011 Best of Show Award」も受賞したことにより、多くの企業から引合いをいただいておりますが、導入前の現地調査および国内の主要企業の景況感悪化から顧客の投資に対する意思決定には長時間を要する状況です。また、中小ビル等への新たな節電に向けて、国の施策として「エネルギー管理システム導入促進事業費補助金」が打ち出され、親会社であるオリックスが4月にBEMSアグリゲータに採択されました。当社としては、この補助金制度を有効活用すべくオリックスとの連携強化を更に進め、今夏以降の拡販に向けて販売戦略の見直しも必要となりました。

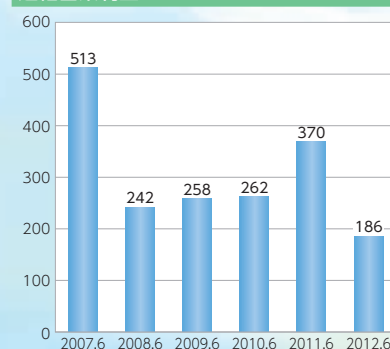
このような状況下で引き続き開発投資を行いつつNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の助成金を活用したオリックス所有のショッピングモールでの実証実験も開始していますが、当初見込んでいた売上を計上するには至りませんでした。

この結果、当連結会計年度の売上高は1,291百万円(前期比27.3%減少)、セグメント利益は9百万円(前期比96.6%減少)となりました。

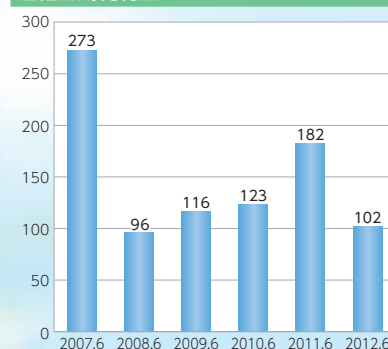
連結売上高 (百万円)



連結営業利益 (百万円)



連結当期純利益 (百万円)



連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2011年6月30日)	当連結会計年度 (2012年6月30日)
資産の部		
流動資産	3,834,635	3,897,724
現金及び預金	2,801,219	2,584,692
受取手形及び売掛金	835,673	1,184,688
たな卸資産	117,577	53,241
その他	80,165	75,102
固定資産	241,385	226,591
有形固定資産	76,764	75,206
無形固定資産	16,270	14,309
投資その他の資産	148,351	137,075
資産合計	4,076,021	4,124,316

	前連結会計年度 (2011年6月30日)	当連結会計年度 (2012年6月30日)
負債の部		
流動負債	695,986	673,324
固定負債	61,743	58,148
負債合計	757,730	731,472
純資産の部		
株主資本	3,285,191	3,352,979
資本金	877,008	880,794
資本剰余金	590,910	594,696
利益剰余金	1,892,746	1,952,962
自己株式	△75,474	△75,474
その他の包括利益累計額合計	△11,809	△13,378
新株予約権	26,405	32,797
少数株主持分	18,504	20,445
純資産合計	3,318,291	3,392,843
負債純資産合計	4,076,021	4,124,316

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2010年7月1日から 2011年6月30日まで)	当連結会計年度 (2011年7月1日から 2012年6月30日まで)
売上高	3,778,894	3,615,601
売上原価	2,749,460	2,782,649
売上総利益	1,029,433	832,952
販売費及び一般管理費	659,168	646,552
営業利益	370,265	186,400
営業外収益	10,835	32,921
営業外費用	15,578	5,438
経常利益	365,521	213,883
特別利益	1,555	—
特別損失	19,619	13,047
税金等調整前当期純利益	347,457	200,836
法人税等合計	163,395	95,912
少数株主損益調整前当期純利益	184,062	104,924
少数株主利益	1,601	1,935
当期純利益	182,460	102,989

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2010年7月1日から 2011年6月30日まで)	当連結会計年度 (2011年7月1日から 2012年6月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	531,761	△160,160
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,040,223	△35,320
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,565	△36,483
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10,699	△4,418
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△522,726	△236,383
現金及び現金同等物の期首残高	2,193,802	1,671,075
現金及び現金同等物の期末残高	1,671,075	1,434,692

■ 会社概要

商号

株式会社ユビテック
Ubiteq, INC.

設立

1977年(昭和52年)11月17日

所在地

〒141-0031
東京都品川区西五反田一丁目18番9号
五反田NTビル

資本金

880,794,806円

金融商品取引所

大阪証券取引所(ジャスダック)

会計監査人

有限責任 あずさ監査法人

証券コード

6662

従業員数

141名(連結)

■ 役員 (2012年9月21日現在)

代表取締役社長	荻野 司
常務取締役	明石 直人
取締役	白木 道人
取締役	野方 孝之
取締役	徳田 英幸 ※1
取締役	江崎 浩 ※1
取締役	梁瀬 行雄 ※1
取締役	錦織 雄一 ※1
取締役	林 雅弘
常勤監査役	平田 満
監査役	小林 稔忠 ※2
監査役	与謝野 肇 ※2
監査役	高橋 通 ※2

※1 徳田 英幸氏、江崎 浩氏、梁瀬 行雄氏、錦織 雄一氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
※2 小林 稔忠氏、与謝野 肇氏、高橋 通氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■ 株式情報

発行可能株式総数.....520,000株
発行済株式総数.....144,300株
株主数.....3,287名

■ 大株主の状況 (2012年6月30日現在)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
オリックス株式会社	85,272	59.67
パナソニック株式会社	14,400	10.08
荻野 司	2,828	1.98
株式会社サン・クロレラ	1,140	0.80
大阪証券金融株式会社	1,105	0.77
平田 満	633	0.44
小島 祥吾	610	0.43
明石 直人	541	0.38
土屋 延寿	485	0.34
小林 稔忠	480	0.34

※上記のほか当社所有の自己株式1,400株があります。

■ 株主メモ

事業年度 毎年7月1日～翌年6月30日
 期末配当金受領株主確定日 毎年6月30日
 中間配当金受領株主確定日 毎年12月31日
 定時株主総会 毎年9月下旬
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL 0120-232-711 (通話料無料)

公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.ubiteq.co.jp/>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IR活動の取り組み

アナリスト・機関投資家説明会を開催しました。

アナリスト・機関投資家の皆様に、ユビテックの事業内容や今後の展望について、代表取締役社長 荻野 司から直接ご説明させて頂く機会として、年2回、アナリスト・機関投資家説明会を開催しています。

今回は、2012年8月22日(水)に東京証券会館で開催いたしました。機関投資家やアナリストの皆様にお集まり頂き、熱心に当社の説明を聴いて頂きました。

この内容は、ホームページ上で動画配信しておりますので、是非ご覧ください。

株主アンケートについて

同封のアンケートにて、株主の皆様のお声を是非お聞かせください。(切手不要)

● ホームページのご案内 ●

当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報など当社をご理解頂くためのさまざまな情報を提供いたしております。

<http://www.ubiteq.co.jp/index.html>

株主および投資家の皆様に向けた内容をご覧頂けます。

決算短信、決算説明会資料、有価証券報告書、ビジネスレポートなどを掲載しています。

決算説明会の動画はこちらよりご覧頂けます。

個人投資家向けメール配信サービスについて

三菱UFJ信託銀行が運営している「Dir Netservice」に登録された投資家の方々にIR情報・プレスリリース情報を適宜配信しております。メールの配信ご登録は、<https://www.dirnet.jp/6662>

